

つなぐ



2025 国際交流イベントを開催しました！



6月23日(月),24日(火)の2日間、福岡市西区の「西部地域交流センター さいとぴあ」にて、外国人技能実習生と支援団体による国際交流イベントを開催いたしました。

実習生と支援団体、企業関係者などが集い、異文化への理解を深め、楽しい交流の2日間となりました。たくさんの実習生や組合員さまが参加していただき、イベントは大盛況でした。ご参加いただいた皆様ありがとうございました。イベントの様子を少しご紹介します。



保険屋は見た(組合員さま限定)

「福岡は、自転車に乗るのが日本一むずかしい？」そんな言葉が飛び出した今回のセミナーでは、外国人実習生が日常で直面しやすい交通ルールの難しさや、事故発生時の対応について、実例を交えて学びました。

紹介された一方通行や進入禁止の標識は、日本人でも迷うことがあるような内容。来日間もない実習生がすぐ理解するのは難しく、それでも「知らなかった」では済まされない現実があることが強調されました。

印象的だったのは、スマホ操作中の自転車事故で重過失とされ、送検・強制送還となった実例。

事故を起こしても「クビかも」「自分で何とかしなきゃ」と抱え込まず、まずは警察・職場・ASIANサポーターなどにすぐ連絡することの大切さが繰り返し伝えられました。

実習生の多くは保険に加入しており、万が一の時には補償や交渉の支援が受けられます。

その情報をしっかり伝え、“知っていれば防げた”を減らすことが、私たち支援者の役割であると再確認する機会となりました。



日本語スピーチコンテスト

九州内の介護事業所などで働く、インドネシアとミャンマー出身の8人が、「わたしの好きな日本の言葉」をテーマに、流暢な日本語でユーモアたっぷりにスピーチをしてくださいました。

NBCの元アナウンサー染谷すみれさんやNBC元ラジオパーソナリティーの山下祥子さんも審査員としてご参加くださいました。

参加者たちは日々の生活や仕事の中で出会った"心に残る日本語"をテーマに自らの経験や思いを語り、会場からは大きな拍手が送られました。その一部をここでご紹介します。



「わたしの好きな日本の言葉」

夏吉睦福祉会

ハニフ ソルフディン

電車の中で偶然耳にした「最高」という言葉に心を引かれ、その意味と響きに魅かれたと語りました。

「日本で見つけた“最高”なこと」として、人々がルールを守り、譲り合いの心を大切にしていることを挙げ、日常の中で感じた日本の良さを伝えました。



ことの海会

シェイン ウィン ティン アウン



「平和」という言葉を選び、自身の思う“平和”とは「争いがなく、暴力がなく、認め合い、優しさで相手を思う気持ちがあること」と語りました。日本に来てそうした“平和な空気”を肌で感じ、自分もそのような毎日を大切にしたいと話しながら、「いつか自分の故郷ミャンマーも、日本のように平和な国になってほしい」と静かに願いを込めました。

恵光会

チイツ ザー ピョ

「会うは別れのはじめ」という言葉を選んだチイツ ザー ピョーさんは、家族と離れて日本に来て、仲間が家族のような存在になっていた中で、別れのつらさを経験したと語ります。しかしその体験を通じて、「出会いと別れはつながっている」と気づき、「別れがあるからこそ、出会いの瞬間を大切にしようと思えるようになった」と前向きな思いを伝えました。



夏吉睦福祉会

カウン ミヤツ ゾオ



「思いやり」という言葉を選び、「相手の立場に立って考えること」が思いやりの本質であり、その心があるからこそ助け合いが生まれ、困った人に手を差し伸べることができるのだと話しました。「思いやりに満ちた社会は、みんながより幸せになれる」と力強く語り、すべての人がこの精神を日々の暮らしの中で実践していくことの大切さを訴えました。

豊徳会

ポー ポー シーサ ウー

「挨拶」を選んだポーさんは、母国ミャンマーにはあまり挨拶の習慣がなく、日本に来て毎日「おはようございます」「お疲れさまです」と声をかけられることが新鮮だったと語りました。

最初は笑顔のない挨拶に少し怖さも感じたものの、「お疲れさま」という言葉には「今日も頑張ったね」と認めてもらえるような温かさがあり、一番好きな日本語になったと話しました。



ことの海会

アデ ナンダ ラマダン



「愛おしい」を選んだラマダンさんは、日本のアニメをきっかけに日本語に興味を持ち、この言葉のやさしく深い響きに心を奪われたと語りました。家族や大切な人、広い意味で人や物に対しても使えるこの言葉が好きだと話し、「日本に来て驚いたのは、地域によって話す言葉が違うこと。同じ日本語なのに通じないこともあり戸惑ったが、今ではそれも含めて日本語の面白さとして楽しんでいる」と笑顔を見せました。

夏吉睦福祉会

ウェ タズイン ピョー

「自信」という言葉を選んだピョーさんは、自分はもともと人前で話すのが苦手だったことを明かし、

「自信とは、完璧なものではなく、小さな挑戦や失敗、成功の積み重ねで育っていくもの」と語りました。

「できると思う強さではなく、“できるか分からないけどやってみよう”と思える勇気こそが自信」だと、自らの経験をもとに力強く伝えました。さらに「比べる相手は他人ではなく、昨日の自分。少しでも前に進んでいれば、それでいい」と語り、多くの参加者の共感呼びました。



豊徳会

ティエ イ ザー



「ありがとう」という言葉を選んだティエ イ ザーさんは、母国ミャンマーではあまり感謝を言葉にする文化がないことを紹介しながら、

「心の中で感謝していても、言葉にしなければ相手に伝わらない」と話しました。

「ありがとうと素直に伝え合えることはとても素晴らしい文化」だと感じ、日本語の温かさに触れた喜びを語りました。言葉の大切さがとてもよく伝わる内容でした。

どのスピーチにも、実習生たちが異国の地で感じた戸惑いや発見、そして前向きに生きようとする強い思いが込められており、会場にいた誰もが心を動かされる時間となりました。



食事交流会



活魚茶屋ぎうお本店

1日目の夜に行われた食事交流会では、同じ法人に所属する外国人材同士はもちろん、法人の垣根を越えた自然な交流の輪が広がりました。

はじめはやや緊張した空気もありましたが、次第に母国語や日本語での会話が弾み、会場は笑顔と温かい雰囲気になりました。

新鮮な海の幸の料理が売りのお店ということもあり料理では、ぶりぶりの刺身が大好評。一方で、生ものが苦手な方もおり、文化や食の好みの違いを知る機会にもなりました。なかでもエビの天ぷらは国籍を問わず人気で、会話のきっかけにもなっていました。

食を囲みながら生まれたつながりが、今後の関係づくりにもつながることを期待しています。

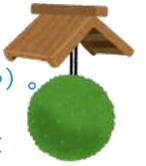


外国人材の福岡市内 文化研修

2日目は、実習生たちが福岡市内の工場や施設を訪れ、日本の「つくる」文化を体験する研修ツアーが行われました。

最初に訪れたのは、名勝・二見ヶ浦を見下ろすことができる、高台の公園です。曇り空ではありましたが、透明感のある糸島の海の眺めを楽しみました。次に訪れたのは、一蘭とんこつラーメンの工場博物館。製造工程を見学した後は、できたてのラーメンを試食し、本場の味に笑顔がこぼれました。続いて向かったのは、日本酒の蔵元・杉能舎（すぎのや）。発酵や麹、伝統的な酒づくりについて学び、職人の技にふれる貴重な時間となりました。

最後は、海水から塩をつくる体験で知られる「またいちの塩」を見学。自然の力を活かした製塩方法に、実習生たちは大きな関心を寄せていました。見て、学び、味わいながら、日本の文化やものづくりの心にふれる機会となりました。



介護技能評価試験実演セミナー



介護事業に携わっておられる組合員さまを対象に、介護技能評価の実技試験に備える方法を、実演とディスカッション形式で学びました。

すでに、評価試験を経験し、合格された組合員さまから苦労された点や改善策なども教えていただき、とても良い意見交換の場となりました。



今回のイベントにご参加いただいた皆さま、そしてスピーチコンテストに向けてたくさんの準備を重ね、心を込めて発表してくれた出場者の皆さんに、ASIANスタッフ一同、心より感謝申し上げます。

文化の違いを越えて、学び合い、笑い合い、支え合える時間を共に過ごせたことは、私たちにとってかけがえのない宝物となりました。今年にご参加いただけなかった組合員の皆さまも、ぜひ来年は皆さまの法人で働く実習生・特定技能人材とともにこのあたたかな交流の場にご参加ください。皆さまとまたお会いできることを楽しみにしています。

外国人も作れる！
日本料理シリーズ③

●ツナマヨそうめん●



<材料 (2人分)>

- そうめん … 2束
- ツナ缶 (ノンオイルかオイル) … 1缶
- マヨネーズ … 大さじ2
- しょうゆ … 小さじ1
- こしょう … 少し (入れなくてもよい)

<作り方>

1. ツナの油をすてる。
 2. ボウルにツナ・マヨネーズ・しょうゆ・こしょうをまぜる。
 3. ゆでたそうめんをさらにもりつける。(そうめんは袋に書いてある時間どおりにゆでる。それを水道の水で洗って冷やしておく)
 4. そうめんの上に2 (ツナ マヨネーズ しょうゆをまぜたもの) をのせる
- ねぎやのりをトッピングしてもOK。



ワンポイント

- 「そうめん」はゆですぎないように、袋に書いてある時間を守りましょう。
- めんを水でしっかり冷やすと、おいしくなります。
- 具は、ハムやトウモロコシなど、好きな野菜や肉を入れてもいいです。
- チリペッパーやとうがらしをお好みで加えるとスパイシーヌードルになりますよ！



●そうめんとは？
そうめんは、こむぎこ (小麦粉) で作られたとても細いめん (ヌードル) です。日本では、夏によく食べます。水でひやして、つめたいスープ (めんつゆ) で食べることが多いです。



●ツナかんとは？
ツナかんは、ゆでたまぐろをつかったかんづめ (缶詰) です。そのまま食べられますし、料理にもつかえます。



今期の入国データ
(5月~7月)

特定技能 5人
技能実習 4人



恵光会様
技能実習生 2名



御陽会様
特定技能 3名

Just Moved in Japan



大石牧場様へ



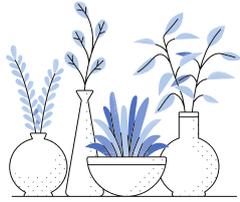
高見果樹園様へ



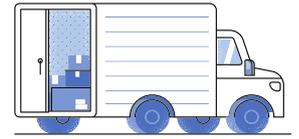
長崎市手をつなぐ育成会様
特定技能 2名



菅野谷興産様
技能実習生 2名



3年間のサポートを終えて



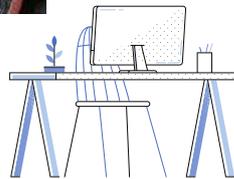
3年前の6月、小柄でかわいらしい人たちに初めて出会いました。「溶接の仕事をするんだ～」と聞いて、正直びっくりしたのを覚えています。

その翌月、7月に訪問したときには、ちょっと大きめの作業着にヘルメット姿で、たくましくなっていました。厳しい暑さの中、「暑いのは大変だけど、仕事は楽しい」と笑顔で話してくれたのが印象に残っています。



チュエンさんはおとなしい性格で、あまり多くを語るタイプではありませんでしたが、自分の考えはしっかり伝えようとする姿勢が見られました。いつ尋ねても、「仕事は難しいけど楽しい」と言われ、不満や文句を聞いたことはほとんどありません。

ベトナムに残している子どもの話をするときの母の顔、汗を流しながら黙々と働く姿、買い物や料理を楽しむ日常の一面…この3年間で、たくさんの表情を見せてもらいました。



退職のときに会社からもらったというクレーンの写真も見せてもらい、「私も欲しい!」と思うほどかっこよかったです😊

帰国前のサポートで転出届の提出などを済ませたあと、一緒にベトナム料理店へ食事に行きました。おすすめを尋ねると、チュエンさんがリードしてオーダーしてくれました。帰り際、「今日は自分が支払います。これまで3年間助けてくれてありがとうございます」とご馳走してくれて……思わず涙が出そうになりました😭



大変なこともたくさんありましたが、その言葉ですべてが報われたように感じました。

最後は福岡空港まで一緒に行って、ちゃんと見送ることができてよかったです。帰国後は、自宅でライチの収穫を手伝っているという写真を送ってくれました。日本で学んだこと、得た経験が、これからのチュエンさんの人生にきっと活かされることを心から願っています。

3年間実習実施者としてトレーニングしたり、生活の支援をしてくださったタダノエステックの職員の皆様にも感謝を申し上げます。

(香川エリアサポーター 嶋田江利)

